

北海道白糠高等学校

課程 全日制
学科 普通科
生徒数 271名

1 事業のねらい

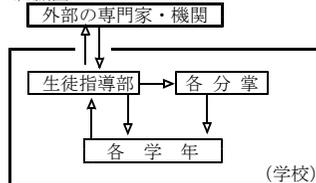
本校には、学校や家庭における悩みを抱えている生徒があり、入学後に学校生活になじめないなどの理由から、学校での生活に目的意識をもたなくなってしまうことがある。特に、1年生においては、人間関係がうまくつくれない、クラスメートとのトラブルをうまく解決できないなどの理由から、学校をやめてしまう生徒もいる。そこで、人間関係能力や表現力を育てる集団体験学習などを通し、コミュニケーションスキルの育成や学級集団づくりを促進し、生徒の学校への目的意識を向上させていきたい。

2 取組の経過

- 4月
- 入学前の中学校訪問による生徒情報の交換（1年生）
 - 入学後の個別面談と、家庭連絡や訪問による生徒状況や家庭環境の把握（1年生）
- 5～7月
- それぞれの教職員が把握している生徒に係る情報の共有化と個別指導（教職員）
- 9月17日
- 教育相談や生徒理解に関する外部の専門機関による研修会の実施（教職員）
- 10月
- 学習面及び生活面における少人数、個別指導（教務部、各学年）
 - アンケートや面談等による生徒状況把握
 - それぞれの教職員が把握している生徒に係る情報の共有化と個別指導（教職員）

- 12月13日、3月10日
- 1学年対象に、自己理解を深め、コミュニケーションスキル向上のための演習と講演
講師：医療大准教授 富家先生
- 3月
- アンケートや面談等による生徒状況把握

<組織図>



3 主な取組の内容

1 生徒に係る情報の共有化と個別指導（教職員）

前期においては、1学年生徒の家庭環境や状況について学校全体で共有化を図り、学校生活における不適応生徒の早期把握と対応の在り方について協議し、その後の指導に反映させてきた。

また、9月17日に教育相談や生徒理解に関する研修会を全教職員対象に実施し、学校全体の指導の充実を図った。

2 コミュニケーションスキル向上のための演習〔12/13（月）、3/10（木）1年生対象〕

後期は、全校生徒の面談等を通して、学校生活や家庭生活の状況を把握するとともに、北海道医療大学の富家先生を講師に、「仲間をおもいやる心」を育むことをねらいとして、生徒のコミュニケーションスキルの向上を図るための交流分析に関する演習や講演を1年生を対象に実施した。



《12月13日（月） 第1回高校生ステップアッププログラムの様子》



コミュニケーションスキルの解説



自己分析結果のまとめ



医療大学生の交流実演ビデオ

《3月10日（水） 第2回高校生ステップアッププログラムの様子》



場面ごとのコミュニケーション例の説明



生徒への質問、回答

4 成果と課題

○ 成果

教育相談や生徒理解に関する研修会を通して、生徒は楽しみながら演習等に取り組むことができた。相手の気持ちを理解する活動を通じて、自分自身のことをあらためて見つめ直す良い機会となり、生徒の事後のアンケートでは、「ふだん学べないようなことを、じっくりと学ぶことができてよかった」、「もっと客観的に自分の行動を振り返ってみようと思う」、「新しい自分を見つけられた」、「相手のことを気づかえるようになりたい」、「考え方を考えるだけで気持ちが変わる」、「色々な人の意見を聞いてみるのは良い」などの感想が多く寄せられたことから、自己理解を高めるとともに、コミュニケーション能力を向上させる効果的な活動であり、生徒自身が積極的に取り組んでいたこともわかった。

また、これらの取組の結果、今年度の1年生は、例年に比べ落ち着いた学校生活を送ることができている。

○ 課題

本校生徒の家庭状況は、経済的に厳しく保護者が多忙な家庭や教育力も十分とは言えない家庭も多く。そのため、学校生活において、集団としてのまとまりや、学習における基礎的・基本的な理解の確実な定着を目指し、個々の生徒に教員から声かけをして、放課後に補習を行ったり、個別の学習支援等を行うことにより、学校が安心して生活できる「心の居場所」となり、生徒が自己有用感をもてるような組織的な体制を構築していく必要がある。

○ 次年度に向けて

今年度のこのプログラムの成果と課題を踏まえ、次年度の取組の内容を精査し、アンケートや面談等から生徒の気持ちや考え方の変容を適確に把握した効果的な指導を行ってきたい。また、クラス内、学年内のリレーションを一層向上させ、集団づくりを促進し、様々な学校教育活動に生徒一人一人が意欲的に取り組める環境を整えていきたい。